

防災に強いまちづくりとは

日頃からの備えと多職種連携

3月5日安来商工会議所にて「令和4年度医療介護合同勉強会」(安来地域介護支援専門員協会 安来地域包括支援センター共催)を開催しました。

今回は、地域の防災を多職種で取り組むきっかけづくりを目的に、つるかめ診療所(栃木県下野市)所長の鶴岡優子先生にご講演を頂きました。

第1部では、在宅医療と絡めて「災害とは何か?」第2部ではつるかめ市民講座と絡めて「地域で取り組む防災」についての内容でした。

災害に強いまちとは、「みんなに優しいまち」「日頃できなければ、災害時にはできない」「日頃からの備えと地域包括ケア」等、安来の現状と照らし合わせながら、皆で考える時間になりました。

後半のグループワークでは、それぞれがケアマネージャーになり、一人暮らしの高齢者の生活をどう支えるか、それには何が必要か、どんな医療が必要か:意見を出し合いました。

次に「防災」に視点を移して、震度5の地震に直面した場合、対象者を支援するには医療・福祉・地域住民にはどう対応したら良いのか、様々な視点で話し合いをしました。

たくさんの方が飛び交うなか、グループ発表では、「地域で日頃からゴローさんの存在を知っておいてもらう」「地域での連携を日頃からしておく」などの意見があり、専門職だけではなく、地域全体で防災に取り組む認識を新たにしました。

参加者アンケートでは、「今後も災害等の対策についての勉強会を開催してほしい」「地域の多職種連携についての重要性について再認識した」「災害について安来市ではまだまだ連携が不足している」等のご意見を頂きました。

今後皆様からの要望をもとに勉強会の開催を計画していきたいと思えます。

ご参加頂きました皆様には改めて感謝申し上げます。

地震直後の支援

- ・家族 本人に電話・かけつける・ケアマネに電話
- ・ご近所さん 声掛けで安否確認
- ・ケアマネ 電話で安否確認
- ・民生委員 訪問して状況確認 避難所へ誘導
- ・行政 登録台帳を確認して民生委員に連絡
- ・サービス事業所 安否確認
- ・配食サービス 安否確認
- ・MCS (メディカルケアステーション) を使用

事前から取り組む支援(備えておくこと)

- ・本人にとって信頼のおけるキーパーソンを知っておく
- ・支援チームで事前に話し合う
- ・役割分担を決めておく
- ・ケアマネから日頃地域の人がかわっていく
- ・町内会長・包括支援センター等を知ってもらう
- ・本人がどのような暮らしを望んでいるか明確にしておく
- ・認知症の進行予防で訪問看護・デイサービス等人のかわわりを増やしていく
- ・ゴミ屋敷問題を相談
- ・地域で日頃から訓練
- ・地域の人がゴローさんの存在を知ってもらう



鶴亀ゴローさんの情報

- ・北海道出身、30代で離婚、子供2人は成人
- ・安来市でヤスギガガネを製造
- ・どこでもゴミ焼却やゴミ拾い(ゴミ屋敷)
- ・近所の人は市役所に苦情を
- ・娘が呼ばれ病院で認知症と診断される
- ・投薬が始まるが、定期的な内服は困難
- ・娘が介護保険の申請、結果は要支援2
- ・お風呂は嫌い
- ・デイサービスで怒鳴り散らしている
- ・料理はしなくなり、即席ラーメンの種をバリバリ
- ・娘の来訪を心待ちに 息子も心配してます

グループワーク みんなで検討した支援内容

NEWFACE~職員紹介~

今はまだわからないことだらけですが、安来の町を知り、在宅医療と介護の課題を理解して、お役に立てるように、少しずつ頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



伊藤 順子(看護師)

